

学校の小規模化によるメリット・デメリット

資料 2 - 3

1. 児童・生徒が少ないことによるもの

メリット	デメリット
・体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。 ・他学年も含め子ども同士のコミュニケーションがとりやすい。 ・教師が一人ひとりの児童生徒に、よりきめ細やかな指導・支援をすることが可能。 ・家庭の状況を含め一人ひとりの個性をより深く理解し、対応できる。 ・委員会や係・役割を豊富に体験できる。 ・子どもたちにとって集中しやすい環境をつくりやすい。 ・人数の関係で入りたい委員会やクラブに入れないことが少ない。 ・緊急時の小回りが利く。（連絡先が少ない、方針の変更がしやすい） ・教員が受け持っていない児童の顔や名前を覚えやすく、声掛けや指導がしやすい。 ・個人記録や通知表、指導要録やプリント配付などに要する時間が短くなる。 ・「地域の学校」というイメージをつくりやすい。（コミュニティースクールを含め） ・保護者間の結びつきが強いものになる。	・体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。 ・子どもが、他者の多様な考えや思いを知る機会が少ない。 ・他者を尊重する経験を積みにくく、集団の中で自己主張することや、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。 ・多様な価値観に触れさせることが困難となり、児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある。 ・運動会などのイベントの負担が大きい。 ・クラブ活動や部活動の種類が限定される。 ・男女比の偏りが生じやすい。

2. 学級数が少ないことによるもの

メリット	デメリット
・学校の教室・施設を柔軟に使うことができる。 ・学級編成がないため、進級時の不安が少ない。 ・ALT等が英語の授業以外に参画することが容易になる。 ・学年単学級であれば、学年内での意思統一（共有）の時間を取る必要がない。 ・教職員の良好なコミュニティーを形成しやすい。 ・教員の指導の差などの調整が容易である。 ・教員内の情報共有がスムーズである。 ・各活動において異学年と関わる機会が多い。	・人数が少なくても特別教室等使う教室に差が生じにくいため、掃除等の維持管理が大変である。 ・子どもが相談できる教員の数が少なくなる。 ・学級の雰囲気を変えることが容易でない。 ・人間関係が固定化され、人間関係が悪化すると解消が難しい。（逃げ場がない） ・児童・生徒間トラブルに教員が対応する時間を確保しにくい。 ・クラス替えが全部または一部の学年でできない。 ・運動会の運営等において、クラス対抗が困難。 ・学年で1クラスの場合、相談しながら学級、学年運営ができない。（連携しにくい） ・教材や行事など、学年のことについて相談できる教員が少ないため、偏ったものになったり、たくさんのアイデアが出たりしにくい。 ・一人の教員が果たすべき校務分掌が多岐にわたる。担当教員が休みの場合、対応が困難。 ・運営に係る一人当たりのコストが高くなる。